

ふるさと歴史アラカルト

手書きの印鑑？

近年、押印や署名手続きの見直しが進んでいます。押印や署名を省略すること、生産性の向上が見込まれるなどの利点が挙げられています。歴史を振り返ると、日本人が書いた文書には頻繁に印鑑や署名が登場します。中でも独特な形をしたものが花押です。

花押は書判とも呼ばれる、手書きの署名の一種です。本来は実名をもとに作成された文様ではありますが、文字の省略や合体、さらには実名とは関係のない記号や流行の形式なども取り入れられるため、花押から名前を読み取ることがかなり困難です。しかしそういった図案の複雑さは、他者による文書の偽造を防ぐといった面では大いに機能し、現在に残された文書の真贋を判定する要素にもなっています。

日本では平安時代に広まった花押は、時代によって差はあるものの、公家・武家・僧侶・庶民とあらゆる人々が使用しました。また一人の人物が年齢に応じて異なる花押を用いる場合も少なくありませんでした。例えば、初代岩

国領主・吉川広家は、少なくとも9種類の花押を用いています。

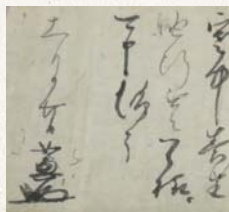
花押は、自らが記した文章に据えられました。時には文章は別人が代筆し、本人が花押を据えることによって、本人発行の文書とされました。さらに江戸時代には、花押の輪郭を判で押し、その中に塗りつぶす方法でも書かれるようになりました。

このように古くから署名の一端を担ってきた花押ですが、明治6(1873)年、明治政府は証書には必ず実印を用いるよう通達しました。山口県内でも「士族が書類を出す際は、これまでも花押ではなく実印を用いること」と旧武士の間ではなお盛んであった花押の廃止を進めました。こうして花押は一般的な文書から姿を消していきま

した。印鑑を押すという行為一つにも、歴史的背景があるように、現代生活に应运じて変わりゆく中にある歴史に気付くと、より一層歴史を身近に感じることができるようではないでしょうか。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）



写真…吉川広家（如兼）が家臣に宛てた書簡末尾の日付の下に据えられた実名と花押



岩国徴古館では、初代領主・吉川広家をはじめ、花押をデザインした缶バッジ(100円)を販売しています。

岩国市 人口・世帯

人口 130,755人【前月比 -70人】 男性 62,248人 女性 68,507人

世帯 65,565世帯【前月比 + 2世帯】 ※外国人人口を含む(2021年9月1日現在)

交通事故発生件数

8月分事故件数 11件(140件) 死者数 0人(4人) 傷者数 14人(167人)

※高速道路発生分を除く。()内は2021年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337